

# 福井

## 「福井全研ニュース第 11 号」

「ほ〜れぽ〜れ 9 月号」福井県版特別号

発行日 平成 30 年 9 月 25 日

編集・発行 公益社団法人 認知症の人と家族の会 福井県支部  
事務局 〒910-0017  
福井市文京 2-9-1 嶺北認知症疾患医療センター内  
TEL: 0776-28-2929 FAX: 0776-63-6756  
E-mail: monowasure@fmatsubara.com

### ヒストリー福井 第 9 章「コシヒカリと福井」

美味しいおコメの代名詞「コシヒカリ」発祥の地の歴史を調べたことを少し紹介させていただきます。

昭和 19 年、新潟県農事試験場（農林省指定水稻品種育成試験地）で農林 22 号と農林 1 号の人工交配による雑種第 1 代がコシヒカリのもとになります。しかしながら戦時下であり栽培品種には至りませんでした。

戦後、この研究が再開され、昭和 23 年には雑種第 3 代 3,000 個体の中から 65 株を選び出し、このうち 20 株を福井農事改良実験所（現福井県農事試験場）に引き継がれ、石墨慶一郎博士らにより系統の選抜を開始。（\* 系統の選抜とは、優れた形質を持つ種子を選び出し、繰り返し栽培を続け、新品種として栽培可能な種を作り出すこと）

そして、昭和 26 年に「越南 17 号」と名付けた種子が新潟県はじめ 22 県に配布され試験栽培されました。

昭和 31 年、新潟県と千葉県で良好な結果が生まれ「越南 17 号」を奨励品種に採用され、農林省新品種候補審査会を経て、農林 100 号「コシヒカリ」として登録されました。そして、コシヒカリ育成者の代表として石墨慶一郎博士は日本育種学会賞や農林大臣賞を受賞しました。

新潟県から福井県までは、古代には「越の国」と呼ばれていたことにより「コシヒカリ」と命名されました。「コシヒカリ」という名前は「越の国に光り輝くお米」という意味です。

コシヒカリは、新潟県だけ、福井県だけで開発されたのではなく、「美味しいお米」を作り出すという多くの人々の熱意により生まれたものであり、何か「家族の会」につながるものがあるようにも思います。

現在、コシヒカリは、東北の南部から九州まで栽培されていますが、福井全研にお越しの皆様「育ての親」の福井県産コシヒカリを、ご賞味いただきたいと思います。

（写真上は、福井県農事試験場の一角に建立された「コシヒカリの里」の碑）



## 福井全研イベント？ 認知症理解啓発イベント

9月2日(日) 福井市の大型量販店で福井市主催、家族の会ははじめ認知症諸団体が参加して認知症理解啓発イベントが開かれました。

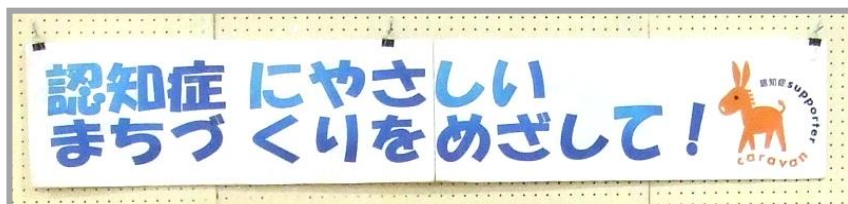
自分の体より大きなパンフレットを手にした坊や

若いお兄さんのお話を真剣に聞き入っているお嬢さん

「ボクも認知症のことを勉強するよ!!」「私も認知症サポーターになります!!」

このような声が聞こえそうです。

福井市のイベント会場での「アルツハイマーデーリーフレット」配りに初めて参加し、若い世代が話をよく聞いてくれたのが、すごく印象的で頼もしくさえ感じました。(写真下)



### イベント会場の各団体特設コーナー

#### 家族の会のコーナー 写真右

全研ポスターと研究集会チラシ、介護独楽吟の一部を掲示

#### 脳年齢測定コーナー 写真右中段

人気コーナーで順番待ちに時間がかかりました。年齢より「10歳若い」と結果が出て大喜び。

しかし、刺激に対する反応速度は平均以下。認知症のことが心配。

#### 会場内には認知症相談コーナー 写真左下段や警察署の交通安全コーナー。

そして、脳機能低下を予防するための健康体操コーナー 写真左中段、

認知症のことを子どもから高齢者まで楽しみながら学べる「すみ」オレンジカルタ体験コーナー 写真右下段。

会場の各コーナーを見せてもらい地域社会で支えるというのはこういうことかと思った次第です。また、福井全研の開催地福井市の熱気・エネルギーを肌身で感じました。



## 介護独楽吟 → 大大・大募集

### 「介護独楽吟」ありがとうございました

全国各支部の皆さんに介護独楽吟ポスターの作成をお願いしてきました。

8 月末には、全国 47 支部から 59 枚のポスターに介護独楽吟 291 首を寄せていただくことが出来ました。この企画は福井県支部の一人相撲になるのではないかとかなり心配しましたが、取り越し苦労になりました。改めて各支部の皆様方にお礼申し上げます。

皆様方からお寄せいただいた 291 首を全研会場に展示させていただきますが、その場で全て読んでいただくことは難しく思い、なんとか印刷物にできないかと考えていました。

そして、思いもかけないことでしたが、全研の抄録に入れていただけることになりました。

介護生活の中に喜びや楽しみを見出し、前向きに生きている人の生き様は、私たちに大きな勇気と希望を与えてくれます。また、家族の介護をする中、家族の絆が深まっていることも伝わり心が温まります。

介護の喜びや楽しみと表裏一体で介護の苦しみや悩み、やるせなさも伝わり胸が締め付けられる思いがします。このような介護家族の「生の声」がより多くの人々の心を動かし、認知症の人と家族を地域で支える原動力になるものと考えています。

#### 介護独楽吟

各支部からの作品より

たのしみはみんな寝たかと確認し

こっそりビールを開けるとき

家族介護者 六十代男性

たのしみはあなたを寝かせほっとして

一人でのんびりワイン飲むとき

現役介護者六十代女性

たのしみは笑顔で主人との晩酌

ワインに焼酎至福のひとつき

夫の介護（見守り中）六十代女性

楽しみは認知の母のお泊り日

一人で飲み語り合う時

自宅介護中の四十代酒豪夫婦

たのしみは今日も無事にのりこえて

ビール片手に母と向くととき

在宅介護者 五十才男性

たのしみは母が寝た後缶チューハイ

片手に海外ドラマみるとき

在宅介護者 六十代女性

お酒にまつわる作品を紹介しました。

「酒は百薬の長」

心も体もリフレッシュ

明日に向けての英気を充電!!

こんなことが頭に浮かんできます。

#### 運営委員の声

昨年の徳島全研の懇親会でタスキをかけ、うちわを振って福井全研の PR をさせていただきました。

「タスキとうちわのアイデアは壇上の若者のアイデア。若い力を精一杯生かした福井全研にします」と挨拶をさせていただきました。そして、会場から「頑張って!」「必ず行くよ!」と力強い励ましの声を頂きました。

以来、瞬く間に時が過ぎ、1 ヶ月後に皆様をお迎えすることになります。多くのことを学ばせていただきたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。(文 会報担当者)

